

報道各位

2024年2月13日
株式会社インプレス

生成 AI の浸透によるビジネスや社会の変化を捉える

『インターネット白書 2024 AI化する社会のデータガバナンス』

発行

28号目を迎えたデジタル業界定番年鑑の最新刊、31人の専門家が寄稿

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:高橋 隆志)は、インプレス NextPublishing の新刊『インターネット白書 2024 AI化する社会のデータガバナンス』(编者:インターネット白書編集委員会)を発行いたします。

『インターネット白書 2024 AI化する社会のデータガバナンス』

<https://nextpublishing.jp/isbn/9784295602521>



编者:インターネット白書編集委員会

小売希望価格:電子書籍版 2,800円(税抜) / 印刷書籍版 3,200円(税抜)

電子書籍版フォーマット:EPUB

印刷書籍版仕様:B5判 / カラー+モノクロ / 本文 266ページ

ISBN:978-4-295-60252-1

発行:インプレス NextPublishing

<<発行主旨・内容紹介>>

1996年の発刊以来、28号目を迎えたデジタル業界定番の年鑑「インターネット白書」。インターネットの影響をテクノロジー、ビジネス、社会制度の観点から報告します。

この2024年版では、特に生成AIの浸透による各分野への影響を振り返り、関連する偽情報・フェイクニュースの問題、プラットフォームやコンテンツ業界の変化、教育現場の対応、世界のAI規制の動きなど、多角的な視点から“AI化する社会”を捉えています。

また、メタバースやデジタルツイン、ライドシェア、SDV(ソフトウェア・デファインド・ビークル)、Beyond 5G(6G)、アクセシビリティや福祉分野のデジタルサービス、ECの物流問題などビジネスに直結するデジタルトレンドから惑星間インターネット、量子インターネットといった次世代通信の研究動向まで、31人の専門家が解説。2024年に注目されるデジタル社会の潮流をより早く、より深く知りたいという人に最適の一冊です。

【今年注目のキーワード】

01 レスポンス AI

さらなる利活用のために求められる開発者の倫理とAIの公平性

02 データガバナンス

データの保護と公平な取引に向けて国境を超えた協調・ルール作りが必要に

03 グリーントランスフォーメーション

カーボンニュートラルの取り組みは企業ごとから流通網全体へ

04 デジタルツイン

防災から不動産DXまで活用の幅を広げる都市のデジタルツイン

05 アプリストア規制

アップルとグーグルによる市場寡占を問題視。OSやブラウザーも議論対象に

06 偽情報

世界中で選挙が行われる2024年。懸念が高まる生成AIのリスク

07 オリジネーター・プロファイル

記事発信者の真正性を検証して偽情報やアド Fraud に対抗

08 惑星間インターネット

地球での発展と成功を手本に月でのインターネット実現を目指す

09 グローバル・デジタル・コンパクト

すべての人に開かれた、自由で安全なデジタルの未来

10 デジタルインクルージョン

福祉でも存在感を放つデジタル技術。アクセシビリティと共生を支援

(インプレス NextPublishing は、株式会社インプレス R&D が開発したデジタルファースト型の出版モデルを承継し、幅広い出版企画を電子書籍+オンデマンドによりスピーディで持続可能な形で実現しています。)

付録 インターネットの主な出来事 2023

付録 インターネットの主な出来事 2023		付録 インターネットの主な出来事 2023	
新製品・新サービス・新技術			
2023	01	<ul style="list-style-type: none"> ■ WPC、次世代ワイヤレス充電「Qi2」を発表。アップル「MagSafe」ベースに (*) ■ ソニー「ホンダゼロエリクシ」新ブランド「AFES」を発表。車間対向に「Media Bar」 (*) ■ AI「Midjourney」で作った漫画「サイバーパンク読本」が単行本に (*) ■ Twitter Blueが日本で月980円でツイート編集や着信バナーなどを提供 (*) ■ Apple BooksでAIがレビューによるユーザーブックの推薦を開始 (*) ■ 国境を越える発信者を識別する技術の高度化。ウェブ標準化を目指す「オアシスユーザープロフィール (OP) 技術研究組合」が設立 (*) ■ YouTubeのショート動画で広告収益化が開始。2月から (*) ■ アップル、新型チップセット「M2 Pro」「M2 Max」を発表。MacBook ProとMac miniに (*) ■ Prime Videoで2023 WBCの日本代表をライブ配信 (*) ■ Wikipediaのウェブ版で10年以上のアップデート更新。検索も便利に (*) ■ LINEドクターでオンライン診療を開始。日本時間と連携 (*) ■ 東京メトロ「乗客アンケートの匿名化」を目指す。当座に非公開。AIで中心に800社以上で実施 (*) ■ NTTドコモ、成層圏層から38GHz帯の電波伝送に成功。1Mbpsの地上ネットワークへ移行 (*) ■ 動画配信「ChatGPT」が一部ユーザーに試験公開。回答が高速に (*) ■ NISA、メタとの提携を拡大。Meta Questで50歳以上をVR観戦可能に (*) ■ グーグル、テキストから音楽を生成するAI「MusicLM」を発表 (*) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ NTT東西、「NOW10」を3月16日に提供開始 (*) ■ OpenAI、ChatGPT AIの「遊戯版」を開発。アプリにAIチャットを組み込み可能に (*) ■ ツイッターの元CEOが支援する分室「Bansky」を発表。車間対向に (*) ■ KDDI、Starlinkをバックホール初期化した移動基地局を導入へ (*) ■ NTTなど4社、光通信と光量子を融合する技術を開発。スーパー量子コンピューター実用化の一歩 (*) ■ 総務省が「MNO事業」に参入。月額3030円で20GB+5分かけ放題の「HORE MOBILE」のサービス開始 (*) ■ 「fTV」が「Lemmy」に。NTTドコモ、オリジナル作品を拡充 (*) ■ アップル、超精密マシンの導入。「Amazon Fightout」を開発開始 (*) ■ OpenAI、GPT-4を発表。検索が向上。画像生成に関する機能にも対応 (*) ■ アルファベット傘下のWings、ドローンによる自動配達ネットワークを発表 (*) ■ グーグル、AIを全面導入。DuM APIやクラウド拡大。GmailやDocsも (*) ■ マイクロソフトの検索エンジン「Bing」がOpenAIの「GPT-4」で動作 (*) ■ バイドゥ、中国版「ChatGPT」を発表。AIでも半額が発表 (*) ■ Microsoft 365 Copilotを発表。AIが返信メール作成やウェブ会議の内容を自動でまとめる (*) ■ アドビ、新生成AI「Firefly」を発表。Creative Cloudなどに搭載 (*) ■ 海外の発信にAIを統合するマイクロソフト。AzureにもGPT-4を搭載 (*) ■ BingのチャットがMicrosoft Edgeのサイドバーから利用可能に (*) ■ 海外から、国境を越える発信者識別技術を開発。外部から使えるクラウドサービス (*)
	02	<ul style="list-style-type: none"> ■ OpenAI、有料プラン「ChatGPT Plus」を提供開始 (*) ■ グーグル、ChatGPTに対抗する独自のAIチャットボット「Bard」を公開 (*) ■ NTTドコモ、遠隔地からロボット手術を支援する実証実験に成功。東京-神戸間で商用5Gを活用 (*) ■ ツイッター、ユーザーに広告収益を分配するレベニューシェアを開始。まずTwitter Blue加入の支払いが条件 (*) ■ AIが音楽制作。空想を超えた想像アート体験を提供。「AIで絵から絵を生成」 (*) ■ OpenAI、ハイブリッド車「Honda」運動の女子選手をミックスリアリティの資料提供 (*) ■ Googleマップの「イマーシブビュー」が東京を含む5都市で利用可能に (*) ■ マイクロソフト、AI搭載「Bing」を発表。「ウェブの翻訳機」のような存在に (*) ■ Microsoft EdgeがAIで修正PDFエンジン搭載。WindowsのPDF体験を向上 (*) ■ Twitterで「数千4000文字のツイート」が削除。米国のTwitter Blueユーザーが対象 (*) ■ Googleの「マルチ検索」が、画像やスクリンショット日本語で検索できる (*) ■ メタ、研究者向け大規模言語モデル「LLaMA」を公開 (*) ■ Windows 10の正が完全に無効化 (*) ■ 無料のTwitter APIが2月13日まで延長。月1500ツイートの新アクセス発表 (*) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ GPT-4で大幅パワーアップした「GitHub Copilot X」を発表 (*) ■ ツイッター、船載の「衛星バナー」開始。月13.5万円のゴールドバナー (*) ■ ツイッター、月額8000円の「認証済み組織アカウント」の受け付け開始 (*) ■ Apple Booksに読みたいマンガが多数。韓国の人気マンガ作品を独占配信 (*) ■ Shakti Diffusionの上位モデル「XL」のベータ版公開。画像の補充なども可能に (*) ■ マイクロソフト、AI活用「Bing」Edgeを一般向けに開放 (*) ■ アップルとグーグル、「AirTag」「Tile」など最新デバイスの機能を強く新仕様を共同開発 (*) ■ グーグルの生成AI「Bard」が日本語対応。大規模言語モデル「PaLM 2」搭載 (*) ■ Google Pixel 7a発表。「Tensor G2」や8倍の超解像ズーム (*) ■ Googleマップの没入型AR案内「イマーシブビュー」。数か月のうちに導入でも開始 (*) ■ グーグル、生成型AIによるコンテンツを検索結果に表示。まずは米国から (*) ■ グーグル、折り畳み型スマホ「Google Pixel Fold」を発表。25万3000円 (*) ■ 富士通、(富士)で大規模言語モデルの研究開発を開始 (*) ■ グーグル、米大企業とシンガポールと量子コンピューターを共同研究。日本政府の政策を支援 (*) ■ スバコン「富士」。2部門で7期連続の世界1位。総合的な実力の高さを示す (*) ■ アドビ、Photoshopに画像生成AI「Firefly」を搭載 (*) ■ Microsoft 365 CopilotをEdgeにネイティブ統合 (*) ■ マイクロソフトのBingがChatGPTのデフォルト検索エンジンに (*) ■ ChatGPT。ついにiPhone向けの公式アプリが登場 (*) ■ EPUB 3.3がW3C勧告に (*) ■ 海外発。読みたいマンガの新サービス「ジャンプTOON」をリリース (*)

<< 目次 >>

10 大キーワードで読む 2024 年のインターネット

第 1 部 デジタルテクノロジーとプラットフォーム

- 1-1 アプリケーションと開発
- 1-2 クラウドとモビリティ

第 2 部 デジタルエコノミーとビジネストレンド

- 2-1 コマースと金融
- 2-2 デジタルコンテンツとメディア
- 2-3 通信サービス

第 3 部 インターネットと社会制度

- 3-1 法律と政策
- 3-2 市民と教育

第 4 部 サイバーセキュリティとインターネットガバナンス

- 4-1 サイバーセキュリティ
- 4-2 トラフィックと通信インフラ
- 4-3 インターネット基盤

第 5 部 インターネット関連資料

- 5-1 国内インターネット普及資料
- 5-2 デジタルコンテンツ資料
- 5-3 IoT その他の資料
- 5-4 世界のインターネット普及資料

付録 インターネットの主な出来事 2023

<<編者紹介>>

一般財団法人インターネット協会 (IAJapan)

インターネットの発展を推進することにより、高度情報化社会の形成を図り、わが国の経済社会の発展と国民生活の向上に資することを目的とし、2001年7月設立。普及促進・技術指導活動として、各種委員会活動 (IPv6 デプロイメント、迷惑メール対策、IoT/AI 時代におけるオープンイノベーション推進協議会) を行っている。安全安心啓発活動として、インターネットルール&マナー検定の実施、インターネット利用アドバイザーの育成、SNS 利用マニュアル・スマートフォン基本設定マニュアル・フィルタリング設定マニュアルの作成、東京都のネット・スマホのトラブル相談業務の運営等を行っている。

<https://www.iajapan.org/>

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)

インターネットの運営に不可欠な IP アドレス等の番号資源について、日本国内における登録管理業務を行っている。あわせて年に一度の Internet Week をはじめとするインターネットに関する教育・普及啓発活動や各種調査研究活動、インターネットの国際的な広がりに対応するための国際的な調整業務を行っている。JPNIC は、任意団体としてインターネットの急速な普及を底辺から支える活動を4年間継続して行ったのち、1997年、科学技術庁(現文部科学省)、文部省(現文部科学省)、通商産業省(現経済産業省)、郵政省(現総務省)の共管による社団法人となり、2013年4月からは一般社団法人として活動している。

<https://www.nic.ad.jp/>

株式会社日本レジストリサービス (JPRS)

「インターネットの基盤を支え、豊かな未来を築く」という理念のもと2000年12月に設立。ドメイン名の登録管理・取り次ぎとドメインネームシステム (DNS) の運用を中心とするサービスを行い、インターネットを支える各種技術の研究・開発にも取り組んでいる。また、国内外のドメイン名の最新動向や DNS の技術情報の発信を行っている。日本に割り当てられた国別トップレベルドメイン「.jp」の登録管理組織であり、JP DNS の運用を行っている。「.jp」の登録管理組織として、国際的なインターネット関連組織と連携し、インターネット基盤資源のグローバルな調整を行う ICANN の活動支援、アジア太平洋地域のレジストリの連合組織である APTLD への参画、インターネット関連技術の国際的な標準化を進める IETF の会合での各種技術提案など、さまざまな活動を行っている。

<https://jprs.co.jp/>

<<販売ストア>>

電子書籍:

Amazon Kindle ストア、楽天 kobo イーブックストア、AppleBooks、紀伊國屋書店 Kinoppy、Google Play Store、honto 電子書籍ストア、Sony Reader Store、BookLive!、BOOK☆WALKER

印刷書籍:

Amazon.co.jp

※ 各ストアでの販売は準備が整いしだい開始されます。

全国の一般書店からもご注文いただけます。

<<インターネット白書について>>

日本のインターネットの動向を専門家の寄稿と統計資料で解説するインターネット年鑑。1996年からほぼ毎年発行し、2024年版で28号目。企画・構成は一般財団法人インターネット協会 (IAJapan)、一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)、株式会社日本レジストリサービス (JPRS) およびインプレス・サステナブルラボ (株式会社インプレスホールディングス内研究組織) によるインターネット白書編集委員

会が担当。バックナンバーはウェブサービス「インターネット白書 ARCHIVES」で公開している。

<http://iwparchives.jp/>

【インプレス・サステナブルラボ】

インプレスグループのサステナビリティを推進する研究組織。グループの社会的価値創造、関係資産維持を目的とし、書籍『インターネット白書』や『SDGs 白書』のほか、DX(デジタル・トランスフォーメーション)やSX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)分野の取材・発信を通して白書の次世代メディア化に取り組んでいます。

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計7,500万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」、「SmartGrid ニュースレター」、「Web 担当者 Forum」等の企業向け IT 関連メディアブランドを総合的に展開、運営する事業会社です。IT 関連出版メディア事業、およびデジタルメディア & サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:松本大輔、証券コード:東証スタンダード市場 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【NextPublishing】

NextPublishing は、インプレス R&D が開発した電子出版プラットフォーム(またはメソッド)の名称です。電子書籍と印刷書籍の同時制作、プリント・オンデマンド(POD)による品切れ解消などの伝統的出版の課題を解決しています。これにより、伝統的出版では経済的に困難な多品種少部数の出版を可能にし、優秀な個人や組織が持つ多様な知の流通を目指しています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス : NextPublishing 推進室

E-mail: np-info@impress.co.jp